

## 令和4年度 学校長による自己評価・総合評価

### 【総合評価】

本年度も新型コロナウイルス感染防止対策を継続しながら、各種教育活動を状況に応じ、工夫して進めて参りました。一人一端末のクロムブックの活用が進み、職員の研修もだいぶ進みました。臨時休業時には一部の学年で端末を用いてのオンライン授業を行い、子どもたちの学びの保障ができました。また、昨年度から継続している創発的な授業づくりと教師の協働した取り組みを進め、複数学年での連携授業や複数担任制の試行で、実質的な成果をあげています。

梨の木祭では、児童生徒が主体的に運営方法や内容の工夫をし、感動的な場を創ることができました。運動会も含め文化祭でも地域の皆様や保護者より児童生徒の姿を認めていただく感想を大勢よりいただくことができ、励みとなりました。学校運営協議会の委員の皆さんには、各種行事・授業参観・共育展望会議等に参加いただきました。子どもたちを観ていただき、PDSAを複数回し、成果と課題を明らかにすることができました。検証結果を次年度に繋げていきます。

また、本年度も教育関係者やその他県内外市町村の行政視察を受け入れました。副校長と前川さんに対応していただきましたが、「義務教育学校のあり方」「コミュニティ・スクールとしての成果と課題」等の問いをもつての訪問でした。少子化が進む現在に於いて、特に各自治体は課題意識をもち、これからの教育行政についてそれぞれの方向を模索しています。視察される多くの方々には、児童生徒の主体的な探究の姿、対話、見方・考え方を深める授業づくり等に驚かれます。

地域と共に共育(教育)にあたる美麻の地での充実した教育環境で、児童生徒が主体となって授業を創ることが職員の喜びであり、地域の皆さんと共に子どもを育てていくことが本校の強みであると伝えています。多様な子どもたちへの対応を教師が協働して模索し、支援を続けていきます。これからのダイバシティーな社会を見据え、その社会を生き、未来を創る子どもたちへの教育の在り方を求め続け、学び続けていけたらと思います。

### 《自己評価から見える課題と方向》

- 1 学校の教育活動については、児童生徒は昨年度と変わりなく「たいへんよい」「よい」という回答が9割以上を占めている。保護者からも「大変よい」の割合が16%増えた。児童生徒への細やかな対応を評価された保護者の意見を大切に受け止め、来年度に繋げていきたい。
- 2 教育課題を「協働の学びの質を高める」とし、全教職員で取り組んできた成果として、授業に対する児童生徒の評価が、昨年度よりも8割以上が肯定的に受け止めている結果となった。対話を軸とする協働の学びの有効性を実感できるように、一層教師全体で授業づくりに励んでいきたい。一方、協働の学びと共に個別最適な学びにも目を向けたい。指導の個別化と学習の個性化を進めていき、協働と個に応じた指導の往還を進めていく。
- 3 元気アップ運動について、ホップ期は昨年度に比べ肯定的な回答が増加した。運動のなかに多様な動きを取り入れたことで、全体的にも肯定的な回答が増えたと思われる。活動の工夫をしながら、体力づくり・健康づくりの目的意識をさらに高めていきたい。自分の体力に気付く記録会ややる気が出る活動の工夫をし、運動の楽しさを味わいながら、自ら主体的に取り組む元気アップ運動を進めていきたい。
- 4 自治会活動や歌声づくりでは、昨年度よりも「だいたいそう思う」が17%増加した。4年前から継続して「ミニミニグループ」を編成し、活動のなかで異年齢の関係づくりが深まって

きている。昨年度の振り返りから本年度はステップ期の7年生がリーダーとなる設定を通してきた。その設定が自分の成長に気付く(自己更新)場となったように感じる。今後も子どもたちの声を受け止め、丁寧に支援を続けながら、児童生徒の主体的な取り組みを見守っていききたい。

- 5 仲間と楽しく安心して過ごせる場所となっているかについては、全体では大きな違いが見られず、ステップ期で肯定的な回答が増えた。ホップ期やジャンプ期では、人間関係の悩みや教師の児童生徒の思いの受け止めが課題という見解もある。子どもの声に傾聴し、居心地の良い教育環境づくりをさらに進めていきたい。
- 6 将来の夢や希望をもち、あるいは目指したい職業を描く児童生徒がジャンプ期で昨年度減少したことを受け、本年度取り組んできた結果、増加に転じた。職場体験の工夫やキャリア・パスポートの運用、総合的な学習の時間である夢の時間・市民科を含め、キャリア教育を一層進めたい。来年度も授業や生活における自己有用感を高められるよう、体験活動での効果を図りたい。

### 《具体的な取組への展望》

- 1 協働の学びの質をさらに高めるために、魅力的な学習問題の設定、相手意識や目的意識をもった対話、児童生徒が主体的に自分ごととしての授業づくりを進める。個別最適な学びづくりの実践研究を進める。  
個々の教員が自分ごととして進めていく課題研修は、ミッション探索カードを今後も活用し、副校長との個別面談を展開しながら、個々に指導者を招聘し、研修推進に厚みを持たせる。
- 2 学びに向かう力を育むために教職員のカリキュラム・マネジメントや創発的な授業づくり、これから必要とされる教師スキルの向上にかかわる研修を継続し推進する。
  - ・クロムブックの活用方法
  - ・市民科や夢の時間等の探究的な学びでの「問い」への支援
  - ・可視化して整理できる思考ツールの活用方法
  - ・個々の特性を大切にし、可能性を伸ばす児童生徒理解と個別支援
  - ・4CHモデルによる協働の学びづくり 等
- 3 メタ認知により、自分の体づくりでのよさや課題を明らかにし、個人の体向上方略を決め出したり、元氣アップ運動の内容を工夫し、自分で設定した目標に取り組んだりすることで、運動の喜びと体力の向上を児童生徒が感じられるようにする。すこやかカードの効果的な活用を通し、健康の保持増進や豊かなスポーツライフを実現しようとする素地をつくる。
- 4 対話を基盤とした自治会による集会や歌声づくりを進め、児童生徒主体の活動の充実を図る。  
ミニミニグループでは本年度の成果を踏まえ、6・7年生がリーダーとなり進めていく。異年齢のかかわりのよさを実感できるように支援していく。
- 5 危機管理を含め、学校づくりにおける諸課題を共有できる開かれた学校とするため、学校運営協議会、地域、公民館、PTA等とさらなる連携・協働を深める。

